

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE埼玉高2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)Kプロジェクト新築工事	階数	地上9F
建設地	埼玉県朝霞市東弁財1丁目4-5、4-6	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	200人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	物販店、病院、集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年2月 予定	評価の実施日	2020年1月15日
敷地面積	636㎡	作成者	㈱タック 古川
建築面積	476㎡	確認日	2020年1月15日
延床面積	2,954㎡	確認者	㈱タック 古川



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.6** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.5**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

**LR のスコア = 2.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 居住者が快適に建物を利用できるよう室内環境に配慮し、居住者はもちろんのこと、隣接マンションの入居者にも良好な環境となる様、上層部をセットバックさせ、採光・通風に配慮した計画としました。		<b>その他</b> 特になし
<b>Q1 室内環境</b> 採光・通風を確保した計画とし、外部に接する面では、断熱及び開口部を複層ガラスとすることで、熱損失を低減できる計画としています。	<b>Q2 サービス性能</b> バリアフリー法に基づいた計画とし、共同住宅の共用廊下に関しては、内部廊下とし、空調設備を備え、サービス性能の向上を図っています。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> まちなみ・景観への配慮として、上層部をセットバックさせ、通りへの圧迫感を軽減を図っている。又、テナントの広告物を一箇所に集約し限定、それ以外は通りに面した各区画のカーテンウォール内で納める計画とし、屋外広
<b>LR1 エネルギー</b> 断熱は外部に接する壁、床、屋根に施し、開口部については複層ガラスを採用し、熱損失を抑えた計画としました。照明計画については、消費エネルギーの低減を図る為、LED器具を採用しました。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 二重床・二重天井とすることで、改修を行いやすい計画としました。	<b>LR3 敷地外環境</b> 外構に透水性舗装及び緑地を施すことにより、雨水の流出を抑制している。及び建物利用者の為の適切な量の自転車置場の設置、地区計画後退ラインより一部セットバックさせることで、見通しを良くし、歩行者の安全の確保及び、歩道の狭さの解消を図る。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS (仮称)Kプロジェクト新築工事**

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、C  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄				全体
配慮項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>2.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>			0.40		-	<b>2.6</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.2</b>	0.15	<b>2.7</b>	1.00	<b>2.5</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.46	<b>3.0</b>	0.47	
1.2 遮音		<b>1.3</b>	0.46	<b>2.4</b>	0.47	
1 開口部遮音性能		1.0	0.83	1.0	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	0.17	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		<b>3.0</b>	0.08	<b>3.0</b>	0.06	
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.0</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.6</b>
2.1 室温制御		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1 室温		3.0	0.54	3.0	0.61	
2 外皮性能		3.0	0.32	3.0	0.39	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.14	-	-	
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20	
2.3 空調方式		1.0	0.30	3.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.1</b>	0.25	<b>2.5</b>	1.00	<b>2.3</b>
3.1 昼光利用		<b>3.0</b>	0.32	<b>3.0</b>	0.30	
1 昼光率		3.0	0.54	3.0	0.53	
2 方位別開口		-	-	3.0	0.21	
3 昼光利用設備		3.0	0.46	3.0	0.26	
3.2 グレア対策		<b>2.0</b>	0.27	<b>3.0</b>	0.30	
1 昼光制御		2.0	1.00	<b>3.0</b>	1.00	
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.13	<b>3.0</b>	0.15	
3.4 照明制御		<b>1.0</b>	0.28	<b>1.0</b>	0.25	
<b>4 空気質環境</b>		<b>2.8</b>	0.25	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.9</b>
4.1 発生源対策		<b>3.0</b>	0.56	<b>3.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.36	<b>3.0</b>	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		<b>1.0</b>	0.08	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		1.0	0.13	-	-	
2 喫煙の制御		1.0	0.87	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.8</b>	0.40	<b>2.6</b>	1.00	<b>2.6</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	<b>2.3</b>	0.60	
1 広さ・収納性		3.0	-	1.0	0.31	
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	0.69	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		<b>2.9</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観		3.0	0.03	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		2.0	0.03	-	-	
3 内装計画		3.0	0.93	3.0	0.50	
1.3 維持管理		<b>2.5</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.8</b>	0.30	-	-	<b>2.8</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		<b>2.2</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		1.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.1</b>	0.30	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.2</b>	0.11	<b>3.0</b>	0.50	
1 階高のゆとり	テナント部分の階高を高く設定することで対応性・更新性の向上		5.0	0.60	3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40	3.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.11	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.77		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>2.1</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30		-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.0</b>	0.30		-	<b>2.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-		-	<b>2.5</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>2.6</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>2.7</b>	0.20		-	<b>2.7</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>2.3</b>	0.10		-	<b>2.3</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	[BEI][BEIm] = 0.98		<b>2.5</b>	0.50		-	<b>2.5</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	0.38		-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50		-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	0.62		-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>2.5</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>2.2</b>	0.20		-	<b>2.2</b>
1.1 節水			<b>1.0</b>	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			-	-		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.5</b>	0.60		-	<b>2.5</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.22		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-		1.0	0.22		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.22		-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70		-	
1 消火剤			-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50		-	
3 冷媒			3.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>2.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			<b>2.9</b>	0.33		-	<b>2.9</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>1.8</b>	0.33		-	<b>1.8</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>1.0</b>	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.5</b>	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制			2.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>2.1</b>	0.33		-	<b>2.1</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1 騒音			3.0	0.50		-	
2 振動			3.0	0.50		-	
3 悪臭			-	-		-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>1.6</b>	0.40		-	
1 風害の抑制			<b>1.0</b>	0.70		-	
2 砂塵の抑制			<b>3.0</b>	-		-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30		-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>1.6</b>	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			1.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート









■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)Kプロジェクト新築工事	BEE	0.6	BEEランク	★★
------	-----------------	-----	-----	--------	----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
2.9	+	1.3	=	4.2 
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上  	非常によい 6.8以上   	すばらしい 8.0以上    	

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	2.9
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	2.9
<配慮した内容を記述> 特になし			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	1.3
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	1.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	1.0
<配慮した内容を記述> 特になし			

 : 入力欄